

図 書 紹 介 · New publications

Les Poissons de Mer des Pêches Françaises. Jean-Claude Quéro, 1984. Maquette Dominique et Philippe Lemonnier, Paris, 394 pp. 280.00 FF.

本書はフランスの漁業上重要魚類の解説書決定版と言ってもよいものであろう。大判(ヨコ 24 cm×タテ 30 cm) いっぱいに載録魚種ほとんど全てのすばらしいカラー写真があり、写真が大きくて鮮明なので、外部形態の細部までその特徴がよく分る。それでも特徴をとらえきれない場合には補助的な外形図(白黒)を駆使して他種との比較が行われている。ほとんど全ての載録魚種(円口類 1 種, サメ類 14 種, エイ類 20 種, 硬骨魚類約 160 種, 計約 200 種)について分布図, 年令に対する体長と体重の関係を示す図, 食性を示す円グラフが色彩図として示されていて, 極めて理解し易いように配慮されている。各魚種の解説は学名, フランスにおける地方名, FAO 標準名(仏, 英, 西), ヨーロッパ各国における呼名, 水平分布, 垂直分布, 種の標識, 他種との区別点, 生物学(再生産, 成長, 食性など), 漁業の順にかなり詳細に行われている。なお各種の解説に先だって, 分類群(科または属)ごとに図(白黒)入りの検索(未載録種も含む)が与えられている。これにも各種の工夫がなされていてとても使い易い。

序文に続き, 魚類学上の基本的な解説があり, ついで上述のごとき載録種の記述が本書の中心をなす。最後にフランスにおける各漁業の簡単な解説と漁場の海洋学のおよび地形学的特徴の解説があり, 本書を締めくくっている。これらの解説も多くは色彩図と白黒の図を併用して簡にして要を得たものとなっている。

本書を手にした者は誰でも, その美しさと構成のすばらしさに驚嘆するであろう。今までにヨーロッパ諸国でこれほど構成, 印刷, 製本の見事な魚類図鑑が出版されたのは稀だったので, とくにその感を深くする。以上評者があまりにも感銘したので, やや評価が甘くなったりいはあるかも知れないが, 本書はこれからの類書に 1 つの見事な行き方を示すものとしても大きな価値を持つものと思われる。なお欲を言えば, ヨーロッパ各国との競合で行われている部分の多いフランス漁業がヨーロッパの漁業の上に占める地位の解説と有名なフランス料理での魚類の利用のされ方の解説があればよかったと言うのではないものねだりに当るであろうか。著者の Dr. J.-C. Quéro は永年におたり IFREMER (最近 ISTPM と CNEXO が合体してできた海洋および水産関係の国立の研究機関) La Rochelle にあり, ガスコニュ湾

(ビスケー湾)を主とする海域に分布する魚類の分類と生態の研究を続けておられ, 漁業についても深い知識を持っておられる。また現在 CLOFETA の編集委員として多忙を極めておられるが, 時々はまだフィールドにも出られている。PROMER, 11 boulevard de Sébastopol, 75001, Paris, FRANCE に注文すれば送料ともて 305.30 FF で購入できる。

(中村 泉 Izumi Nakamura)

The Freshwater Fishes of Europe. Vol. 1, Part 1. Petromyzoniformes. Juraj Holčík, ed. 1986. AULA-Verlag, Wiesbaden, 313 pp.

本書は「ヨーロッパの淡水魚」と題して出版される叢書の端緒に当るもので, 以後順次以下のものが刊行される予定である:

Vol. 1, Part 2. General introduction to fishes, Acipenseridae. Juraj Holčík (ed.).

Vol. 2. Clupeidae, Anguillidae. Henri Hoestrandt (ed.).

Vol. 3. Salmonidae, Coregonidae, Thymallidae, Osmeridae, Umbridae, Esocidae. Yurí Stepanovich Reshentnikov (ed.).

Vols. 4 & 5. Cyprinidae. Petru Bănărescu (ed.).

Vol. 6. Cobitidae, Siluridae, Ictaluridae. K. D. Vasilieva and V. P. Vasiliev (ed.).

Vol. 7. Gadidae, Gasterosteidae, Syngnathidae, Cyprinodontidae, Poeciliidae, Atherinidae, Cottidae, Centrarchidae, Percidae. Anton Lelek (ed.).

Vol. 8. Gobiidae, Blenniidae, Pleuronectidae. V. I. Pinchuk (ed.).

Vol. 9. Threatened fishes of Europe. Anton Lelek.

本書は大きく A, B の 2 部に分けられている。A では General introduction の下に, Morphology, Determination criteria, Zoogeography, Evolution, Ecology, Ontogeny, Feeding, Migrations, Population structure, Economic importance, Literature の 11 項目に分けて総論を展開している。B は Systematic part で, まず検索が与えられており, 次いで各種類ごとに Synonyms, Holotype, Etymology, Description (Morphology, Karyotype, Protein specificity, Sexual dimorphism, Variations, Age and size variety), Subspecies, Hybrids, Distribution (Distribution, In-

roductions), Ecology (Habitat, Migrations, Hardiness, Feeding habits, Longevity, Growth, Population dynamics), Reproductive biology (Maturity, Gonads, Spawn, Spawning period, Spawning sites, Mating habits, Breeding habits, Early ontogeny and metamorphosis), Important parasites and diseases, Economic importance, Literature と項目を分けて詳説されている。以上の項目分けは FAO で行われているそれ (Rosa, 1962) と比較してみると大変興味深いので、やや長きにわたるがここに引用した。刊行する出版物の性質や対象生物群にも左右されると思うが、本書で行われている項目分けは十分な紙数に恵まれている場合には、極めて有効と思われる。

各種類に関する記述は最新の文献まで広く引用して行われており、詳細を極めている (1種平均約 20 ページ)。最近刊行された FNAM (Whitehead et al. 1984-6) に載録されている海産魚の 1 種ごとの記述が平均半ページずつであるのと比べるといかに詳しいか実感できる。

引用文献

- Rosa, H., Jr. 1962. Preparation of synopsis on the biology of species of living aquatic organisms. FAO Fish. Biol. Synop., (1): 1-59.
 Whitehead, P.J.P., M.-L. Bauchot, J.-C. Hureau, J. Nielsen and E. Tortonese, eds. 1984, 1985, 1986. Fishes of the north-eastern Atlantic and the Mediterranean. Vols. I-III. UNESCO, Paris, pp. 1-510, 511-1014, 1015-1473.

(中村 泉 Izumi Nakamura)

Poissons de Mer de l'Ouest African Tropical. Réédition. Bernard Seret. 1986. ORSTOM, Paris, viii+450 pp. ORSTOM PARIS, 213, rue La Fayette, 75010 Paris で、130 FF で購入できる。

本書の初版は 1981 年に出版され、これはその改訂版である。初版では北はモーリタニアから南は北西アフリカ (ナミビア) に至る西アフリカ沿岸沖の熱帯海域 (南北の回帰線にはさまれた海域) に分布する漁業上の重要海産魚類約 200 種がとりあげられ、図入りで解説されている。改訂版 (本書) では約 20 種が追加され、既載録種についても最新情報の追加が行われているものもある。

この地域には西欧諸国の植民地支配が永年に亘って及んでいたし、今なお両者の関係は強いので、過去に多くの調査研究がなされて来ている (e.g., Fowler, 1936;

Cadenat, 1951; Poll, 1951-1959; Williams, 1968; Blache et al., 1970)。本書は著者がセネガル滞在中に得た標本と情報に基づいて上記海域の漁業上重要魚種について一般漁業関係者のための解説書として執筆されたものである。そのため載録種には全て外形図が示されているが (約 220 図のうち約 10 図は色彩図、その他は白黒図)、解説は形態上の特徴と生物学的事実および漁業について極めて簡単になされているにすぎない。また西アフリカ各国における各魚種の呼名が収録されていることはそうした目的に沿うものである。ORSTOM の著名な画家 Pierre Opic 氏の極めて正確で見事な図を変形判 (タテ 15.5 cm × ヨコ 24 cm) の紙面いっぱい印刷しているのが本書の一大利点であろう。魚類研究者も本書を必ずしも見事とは言えない外形図を有するものが多い上述した研究書と併用することにより、この海域の魚類についてより深い知識を得ることができよう。

なお著者の Bernard Seret 氏は現在パリのフランス国立自然史博物館 (MNHN) に附属する ORSTOM に勤務して、軟骨魚類について精力的に研究をすすめておられ、1985 年に東京で開催された 2nd Indo-Pacific Fish Conference にも出席されたので、ご存知の方も多いと思う。

引用文献

- Blache, J., J. Cadenat and A. Stauch. 1970. Clés de détermination des poissons de mer signalés dans l'Atlantique oriental, entre le 20° parallèle Nord et 15° parallèle Sud. Fauna tropical. XVIII. ORSTOM, Paris, 479 pp.
 Cadenat, J. 1951. Poissons de mer du Sénégal, Initiations africaines. III. IFAN, Dakar, 345 pp.
 Fowler, H. W. 1936. The marine fishes of West Africa, based on the collection of the American Museum Congo Expedition, 1909-1915. Bull. Amer. Mus. Nat. Hist., 70 (Part 1): i-vii+1-606; (Part 2): 607-1493.
 Poll, M. 1951-1959. Poissons. In Résultats scientifiques de l'Expédition Oceanographique Belge dans les eaux côtières africaines de l'Atlantique Sud (1948-1949). Vol. IV, fascicule 1, I, Généralités; II, Sélaciens et chimères, 1951: 1-154, 13 pls.; Vol. IV, fascicule 2, III, Téléostéens malacoptérygiens, 1953: 1-258, 8 pls.; Vol. IV, fascicule 3A, Téléostéens acanthoptérygiens, 1^{re} partie, 1954: 1-390, 9 pls.; Vol. IV, fascicule 3B, Téléostéens acanthoptérygiens, 2^e partie, 1959: 1-417, 7 pls. Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, Bruxelles.
 Williams, F. 1968. Report on the Guinean trawling

survey. Vol. I. OAU, STRC, Lagos, ix+828 pp.
(中村 泉 Izumi Nakamura)

Les Poissons de Mer de Mauritanie. Jacques Maigret and Boubacar Ly. 1986. Sciences Nat, Compiègne, 213 pp. 320 FF.

本書は先に紹介した Seret (1986) とほぼ同工異曲のものである。前者(本書)ではモーリタニア沖海域の魚類を扱っているのに対して、後者ではモーリタニア海域も含む熱帯西アフリカ沿岸沖合海域の漁業上重要魚類を扱っている。さて、本書の著者によるとモーリタニア沖には約 300 種の海産魚類が分布していることになっているが(この数字は熱帯域の魚類相を考えた場合あまりにも少なすぎる, Bernard Seret, per. comm.), そのうちの漁業上重要な 130 種が選ばれて簡単な解説が加えられている。これまでモーリタニアの海産魚についてのまとまった論文や本はほとんど出版されていないので、本書はその最初のものと言うことができる。日本漁船によるモーリタニア沖のタコやモンゴウイカ類を主とする底魚類の漁業は以前ほど盛んではないとは言え、なお行われていると思われるので、漁業関係者にとっても本書は便利なるものであろう。

本書に収録された全ての魚類にはカラー写真または白黒の図が与えられている。カラー写真の出来映えは水準以上であるが、それに対して第一著者の夫人(M^{me} Sylviane Maigret-Mondry)による白黒の図は絵としてはおもしろいものだが、科学的論文の図としてはやや正確さに欠けるものもあり、両者の差が目ざわりになるのが惜まれる。またヨウジウオ類、タツノオトシゴ類、シギウナギ類、サギフエ類なども収録されているので、漁業上重要な魚種の選定が必ずしも厳密ではない。さらに、どうした訳か時々写真はあがるが、どこを探してもその種の記述が見当たらないことや、種毎の記述にかなりのむらがあることも注意を要する点である。

なお本書の著者の一人 Dr. Maigret は永年にわたる西アフリカでの研究生活を最近終え、現在はモナコ海洋研究所の研究員であるとともに附属水族館長を務めておられる。

引用文献

Seret, B. 1986. Poissons de mer de l'ouest african tropical. Réédition. ORSTOM, Paris, viii+450 pp.
(中村 泉 Izumi Nakamura)

Studies on the Oceanic Ichthyoplankton in the

Western North Pacific. T. Ozawa, ed. 1986. Kyushu Univ. Press, 430 pp., many plates. ¥10,000.

わが国の稚魚研究において外洋性要素はマグロ類などの一部を除き最も分類学的情報の不足している部分であった。小沢貴和氏を中心とする研究グループによって集大成された本書はその意味においても待望の業績であり、莫大な試料が詳細に比較検討された内容にはそれなりの重味がある。

表題では北西太平洋が対象海域となっているが、試料の大半は 30°N 以南の熱帯・亜熱帯域で採集されており、一部南半球も含まれる。従って、いわゆる北部北太平洋は含まれない。

本書は緒言、材料と方法につづき、15 科の代表的分類群を扱った 18 論文によって構成される。このうち 4 論文は既報のものや再録である。15 科とはカタクチイワシ科、ホテイエソ科、ヨコエソ科、エソ科、ハダカイワシ科、フデエソ科、ヤリエソ科、デメエソ科、ハダカエソ科、サバ科、ムカシクロタチ科、クロタチカマス科、タチウオ科、アジ科、ダルマガレイ科であり、これらの 159 種(タイプを含む)が取上げられている。緒言によるとこれで外洋性稚魚の 90% 以上が種(タイプ)レベルまで識別可能とのことであり、本書刊行の意義はこの一言によって要約されるといってよい。

各論文は小沢氏の単独ないし研究協力者との共著となっており、内容の構成は必ずしも統一されている訳ではないが、種(タイプ)別の個体発育史の図示記載を中心に分類群別の標徴形質のまとめと検索表の提供によって同定の指針を与えることに多大の努力がはらわれている。特に種の同定にあたり成魚形質についても詳細な検討が加えられており、その成果には強い信頼が寄せられる。一方、分布に関する知見の記述は不統一で、例えばダルマガレイ科では分布の章を設けて考察しているのに対し、ハダカイワシ科では全く分布について言及されていない。表現法に難点があるにしても、全ての種について分布の情報を何らかの形で付記しておく必要があったように思われる。

「外洋性」要素をどのように定義するかは意見の分れるところである。本書では収録されなかった分類群に関する参考文献を巻末に掲げることによって対象を広義にとらえているのは適切な配慮というべきであろう。

さて各論文について触れることができないので代表的な一篇“Ozawa, T.: Early life history of the family Myctophidae in the ocean off southern Japan”について紹介しておく。本篇は 75 頁、37 図版の大作であり、ハダカイワシ科の 18 属 70 種(タイプ)が取上げ

られている。勿論、研究の進捗度は属によって異なり、トンガリハダカ属 *Lampanyctus* では 11 タイプ、ハダカイワシ属 *Diaphus* では 22 タイプの A・B2 群への大別で終わっているが、後者については北西太平洋産 25 種のうち 22 タイプが識別されていることは高く評価されてよい。この多様性の高い分類群の稚魚分類学はこれによってほぼ基礎が築かれたと考えられるからである。本篇の文末に注意深い観察によって明らかになった新知見がまとめられていて興味深い。例えば、ソコハダカとイサリビハダカでは大西洋産の個体と形態の相違が認められること、従来、ススキハダカ属 *Myctophum* の種で報告されていた幼期の胸鰭条にみられる過剰鰭条 *supranumerary rays* は、成魚において発光器 (2nd pvo) とその支持表皮によって下部鰭条の一部 (2-6 条) がおおわれてしまうことに起因することなど、いずれも貴重な発見である。

全篇を通じて誤りはほとんどみられない。図版も鮮明であるがダルマガレイ科の図版 22, 23 のカラー印刷にやや難点があるのが惜まれる。また一部の仔稚魚の図に多少簡略化しすぎた印象を受けるものがある。図版が記載の不足を補足する情報源でもあるという立場をとれば、この辺の配慮は見逃すことは出来ないことであろう。

いずれにせよ、本書によって外洋性魚類プランクトン研究への足がかりが与えられたことの意義を改めて強調し、今後の研究の発展を期待したい。

(沖山宗雄 Muneo Okiyama)

以上のほかにも、最近次のようなものが出版されていますので、書名のみをあげておきます。これらについての紹介記事の投稿を歓迎します。

- Cailliet, G.M., M. Love and A.W. Ebeling. 1986. Fishes. A field and laboratory manual on their structure, identification and natural history. Wadsworth Publ. Co., California, viii+194 pp., figs. 1.1-16.4.
- Dawson, C.E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). Gulf Coast Research Laboratory, Mississippi, 230 pp., 293 figs.
- Dor, M. 1984. Checklist of the fishes of the Red Sea (CLOFRES). Israel Academy of Sciences and Humanities, xxii+437 pp., 1 map.
- Lowe-McConnell, R.H. 1987. Ecological studies in tropical fish communities. Cambridge Univ. Press, xii+382 pp., figs. 1.1-14.4.
- Polovina, J.J. and S. Ralston, eds. 1987. Tropical snappers and groupers. Biology and fisheries management. Westview Press, London, ix+659 pp., pls. 1.1-1.3., figs. 2.1-14.5.
- 沈 世傑. 1984. 台湾魚類検索. 台北南天書局, ix+533 pp.
- Smith, M.M. and P.C. Heemstra, eds. 1896. Smiths' sea fishes. Springer-Verlag, xx+1047 pp., figs. 1-6+1.1-270.3, col. pls. 1-144.
- Summerfelt, R.C., ed. 1987. Age and growth of fish. Iowa State Univ. Press, xv+544 pp.
- Whitehead, P.J.P., M.-L. Bauchot, J.-C. Hureau, J. Nielsen and E. Tortonese, eds. 1986. Fishes of the north-eastern Atlantic and Mediterranean. Vol. III. UNESCO, Paris, pp. 1015-1473.

会 員 通 信・News and comments

Conference on Indo-Pacific Fishes

The Third International Conference on Indo-Pacific Fishes will be hosted in Wellington, New Zealand, on 27 November-1 December, 1989. The first circular will be distributed in late 1987. For further information write to Graham S. Hardy, National Museum of New Zealand, Private Bag, Wellington, New Zealand.

エンリコ・トルトネーゼ博士のご逝去を悼む Obituary of Dr. Enrico Tortonese, 1911-1987

1987年5月18日(月)午後1時ジュネボの Museo Civico di Storia Naturale (Giacomo Doria) に、かねて連絡しておいた通り、Dr. Gianna Arbocco (魚類部

主任)を訪ねた。あまり時間がなかったので、すぐさま標本庫に案内していただき、調べたい標本を与えられた実験机へ運び、スケッチや測定にかかった。2時間ほどしてお茶の時間になり、コーヒーを飲みながら「以前ここにおられた Dr. Tortonese はお元気ですか」と聞いたところ、Dr. Arbocco は一瞬口ごもられ、ついて「最近はあまりこちらへは来られませんでした。実は3週間程前に亡くなりました」と続けられた。それからいろいろ博士のことをうかがっているうちに、Dr. Tortonese とは面識はなかったが、永年別刷交換をしていたので、なんだか生前お目にかかっていたような気がして来た。イタリアのこの著名な魚類学者のことを「日本魚類学会の会員に知らせたいなら、私達は追悼文集を出版するつもりで、それができるのは丁度あなたが日本